

**長野県民の結婚・出産・子育て及び
U・Iターン就職状況等に関する調査の概要**

平成 27 年 9 月 16 日

長野県企画振興部総合政策課

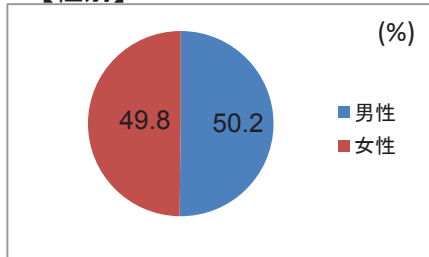
I 長野県民の結婚・出産・子育てに関する調査

1 調査概要

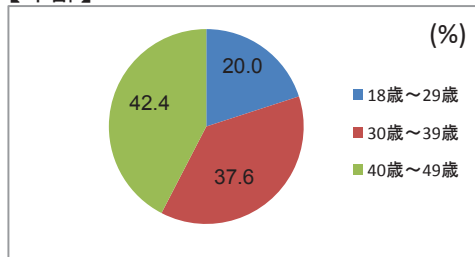
- 調査対象者：長野県内在住の18歳以上50歳未満の男女
- 調査方法：Web調査によるアンケート調査
- 調査時期：平成27年7月
- 有効回収数：3,106（男性1,560 女性1,546）

2 アンケート回答者の属性

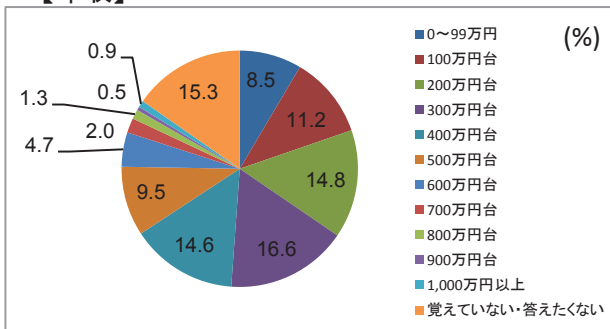
【性別】



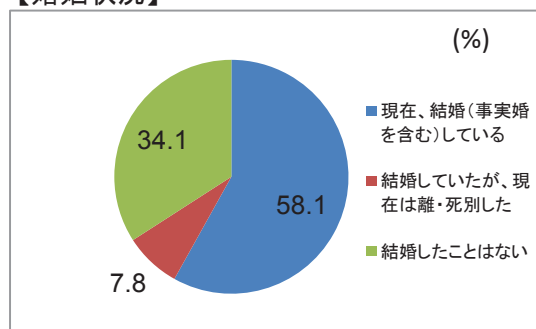
【年齢】



【年収】



【婚姻状況】

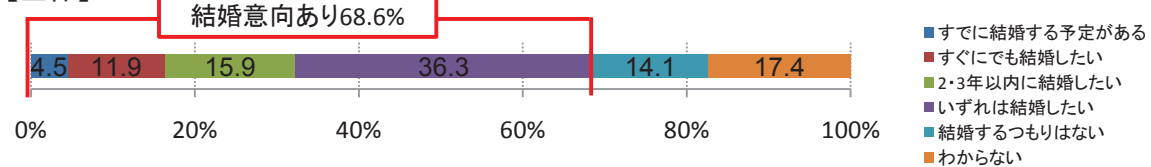


3 主な調査結果

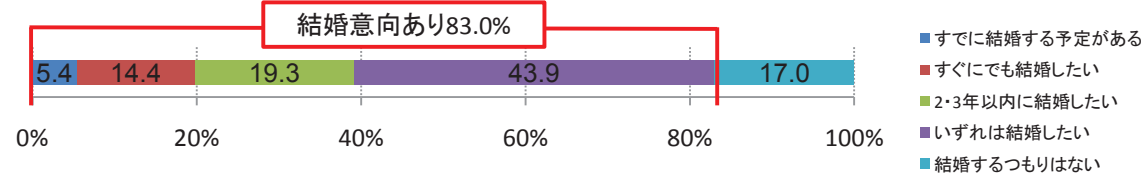
(1) 結婚

● 結婚意向(回答者:独身男女1,302人)

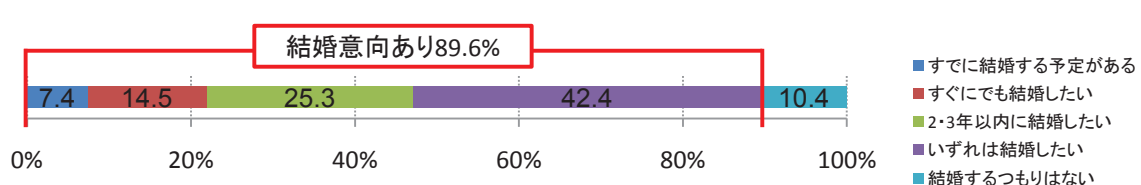
【全体】



【「わからない」を除く】



【18歳～34歳・女性・「わからない」を除く】



独身者のうち、68.6%は結婚の意向がある。態度不明の「わからない」を除けば、83%は結婚の意向がある。希望出生率の算出根拠となる「18歳～34歳の女性」では89.6%が結婚の意向がある。

【性別・雇用形態別】(回答者:学生56人、その他13人を除く独身男女1,233人)

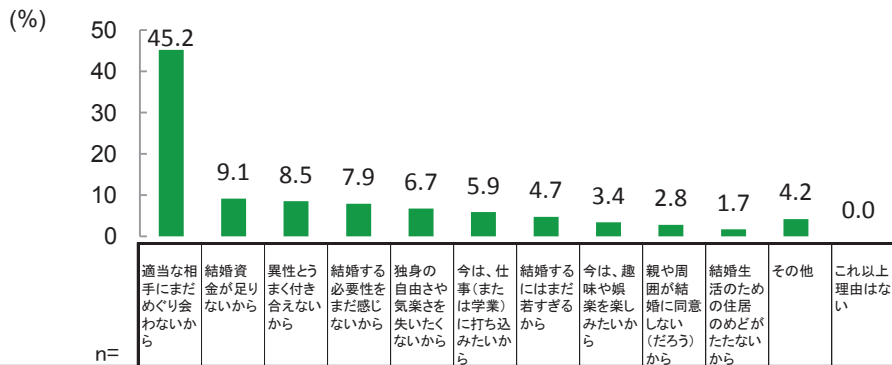
- すでに結婚する予定がある
- すぐにでも結婚したい
- 2・3年以内に結婚したい
- いずれは結婚したい
- 結婚するつもりはない
- わからない

		4.6	12.5	16.5	35.1	13.9	17.4
TOTAL	1233						
■男性 計	643	3.7	12.0	16.2	37.5	12.6	18.0
正規の社員・職員	421	4.5	14.0	17.6	39.7	9.7	14.5
パート・アルバイト	60	3.3	38.3	11.7	33.3	16.7	26.7
派遣・嘱託・契約社員	66	4.5	7.6	12.1	37.9	12.1	25.8
自営業主・家族従業員	63	11.1		22.2	34.9	15.9	15.9
無職・家事	33	3.0	3.0	21.2	36.4	36.4	
■女性 計	590	5.6	13.1	16.8	32.5	15.3	16.8
正規の社員・職員	323	6.8	13.3	19.2	31.6	12.1	17.0
パート・アルバイト	130	3.8	15.4	13.8	33.1	18.5	15.4
派遣・嘱託・契約社員	77	3.9	16.9	13.0	35.1	16.9	14.3
自営業主・家族従業員	16	6.3		25.0	25.0	18.8	25.0
無職・家事	44	4.5	2.3	11.4	36.4	25.0	20.5

※「学生」56人、「その他」13人を除く

男性の結婚意向は正規の社員等や自営業主等で高く、パート等の非正規雇用者が低い。無職等は特に低い。女性の結婚意向は有業者が高く、無職等は低い。

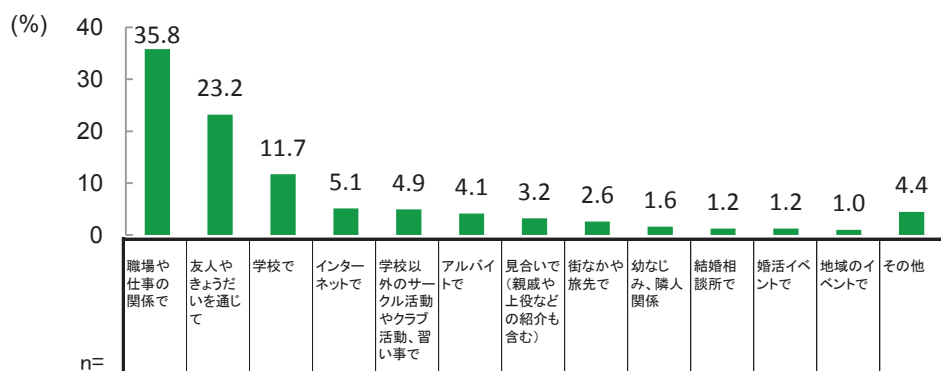
●現在独身でいる最大の理由 (回答者:結婚予定者を除く、結婚意向のある独身者 834人)



	n=	45.2	9.1	8.5	7.9	6.7	5.9	4.7	3.4	2.8	1.7	4.2	0.0
TOTAL	834												
男性10・20代	112	29.5	16.1	8.0	9.8	3.6	9.8	14.3	5.4	1.8	0.9	0.9	0.0
男性30代	181	43.6	12.2	12.7	6.6	5.0	7.7	1.7	4.4	2.2	1.1	2.8	0.0
男性40代	147	59.2	9.5	8.8	5.4	8.8	0.0	0.0	0.7	2.7	3.4	1.4	0.0
女性10・20代	179	36.9	7.3	5.6	8.4	4.5	11.7	11.2	6.1	3.9	1.1	3.4	0.0
女性30代	116	48.3	4.3	9.5	8.6	7.8	2.6	0.0	0.0	4.3	2.6	12.1	0.0
女性40代	99	56.6	4.0	5.1	10.1	13.1	0.0	0.0	2.0	1.0	1.0	7.1	0.0

「適当な相手」は、世代が上がるにつれて増えている。「結婚資金」は比較的男性に多い。「異性と」は男性30代に多く、「結婚する必要性」「独身の自由さ」は女性40代に多い。

●知り合ったきっかけ(回答者:既婚者 1,804人)

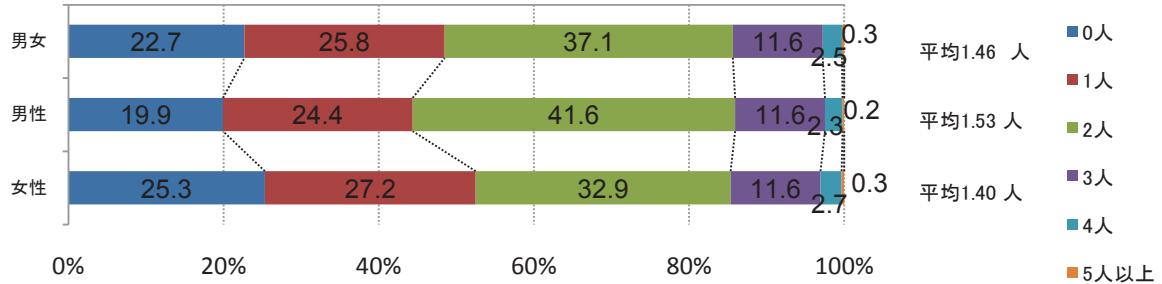


n=	職場や仕事の関係で	友人やきょうだいを通じて	学校で	インターネットで	学校以外のサークル活動やクラブ活動、留学で	アルバイトで	見合いで(親戚や上役などの紹介も含む)	街なかや旅先で	幼なじみ、隣人関係	結婚相談所で	婚活イベントで	地域のイベントで	その他	
TOTAL	1804	35.8	23.2	11.7	5.1	4.9	4.1	3.2	2.6	1.6	1.2	1.2	1.0	4.4
男性10・20代	46	23.9	26.1	23.9	6.5	4.3	2.2	0.0	0.0	2.2	0.0	2.2	2.2	6.5
男性30代	408	36.8	24.5	11.8	5.4	5.4	3.9	1.5	1.7	1.0	1.2	0.7	1.5	4.7
男性40代	434	38.7	18.0	10.1	4.4	5.8	2.3	4.8	3.7	2.1	2.1	2.5	0.9	4.6
女性10・20代	177	26.0	26.6	19.2	10.2	2.8	7.3	0.0	2.3	2.8	0.0	0.0	0.6	2.3
女性30代	317	32.8	30.0	11.7	5.0	3.2	4.4	1.3	2.8	2.2	0.3	1.6	0.9	3.8
女性40代	422	39.3	20.6	8.8	3.3	5.9	4.7	6.2	2.6	0.7	1.7	0.2	0.7	5.2

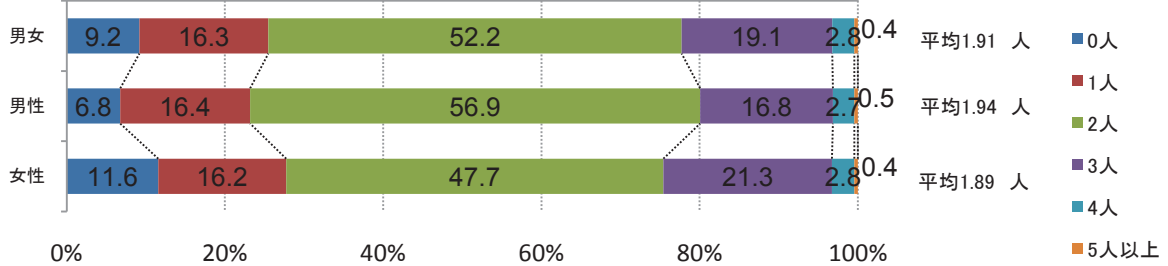
すべての性・年代において、「職場や仕事」「友人やきょうだい」「学校で」が上位3位を占めている。日常生活での自然な出会いが結婚に結びついているとかがわかる。

(2) 出産

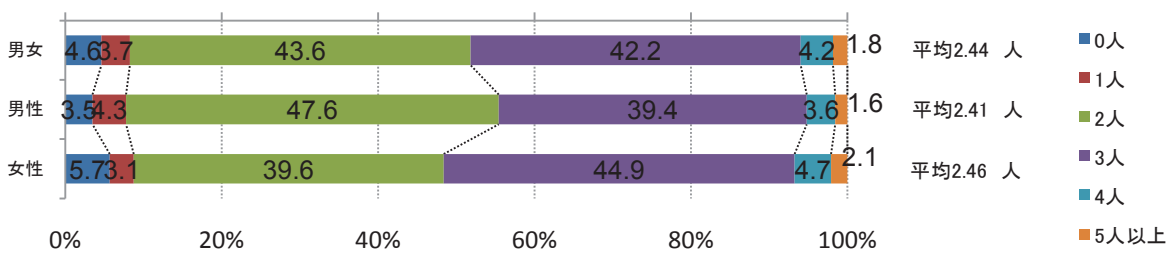
●現在の子ども数(回答者:既婚者1,804人)



●実際に持つつもり(予定)の子ども数(回答者:既婚者1,804人)

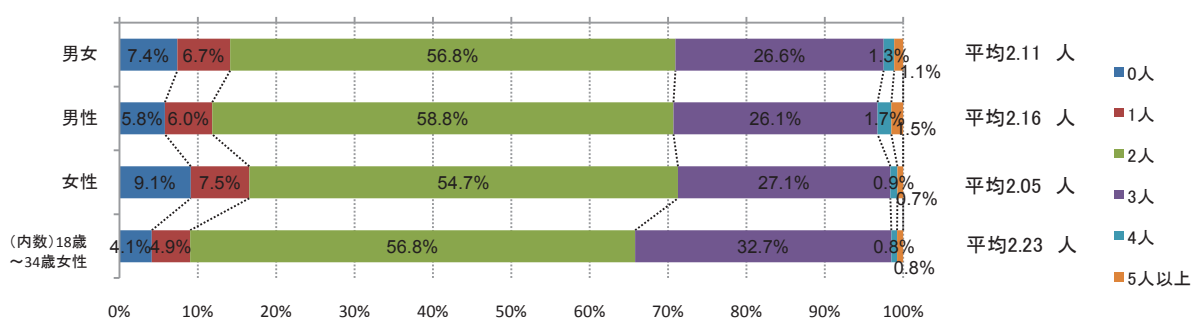


●理想の子ども数(回答者:既婚者1,804人)



現在の子ども数は平均1.46人であるのに対し、予定の子ども数は平均1.91人。さらに理想の子ども数は平均2.44人であり、理想と予定の子ども数の間に開きがある。なお、希望出生率の算出根拠となる「女性の予定の子ども数」は平均1.89人である。

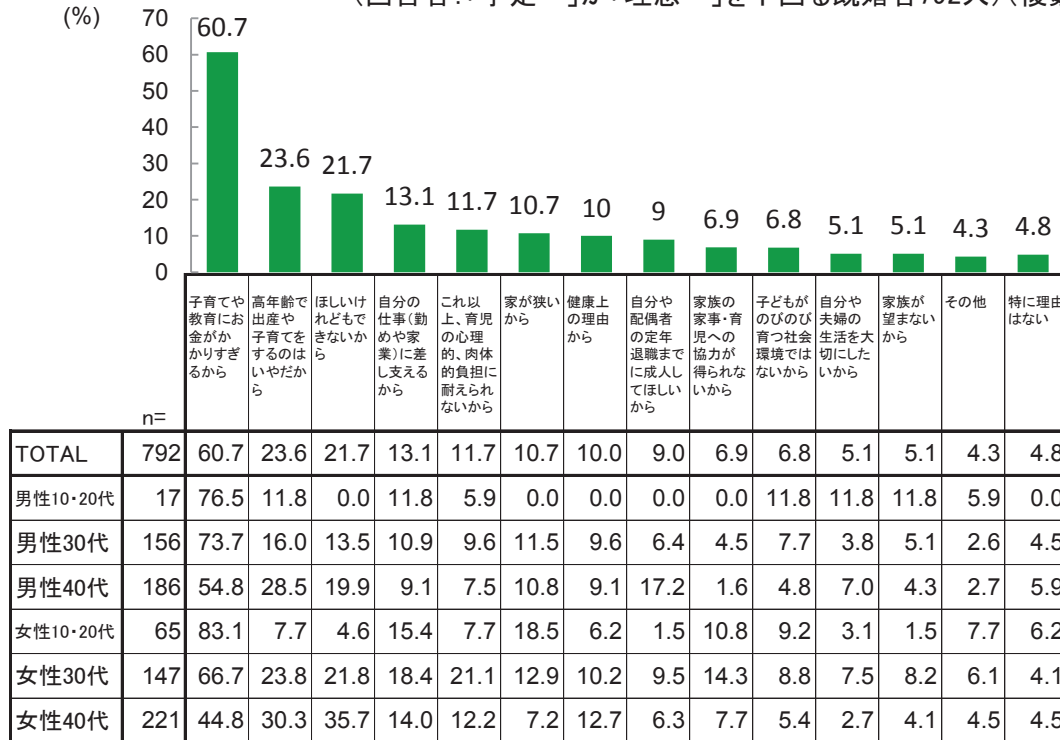
●理想の子ども数(回答者:結婚意向のある独身者892人)



独身者の理想とする子ども数は、平均2.11人。希望出生率の算出根拠となる「18歳~34歳女性」では平均2.23人である。

●「予定の子どもの数」が「理想の子どもの数」より少ない理由

(回答者:「予定ー」が「理想ー」を下回る既婚者792人)(複数回答可)

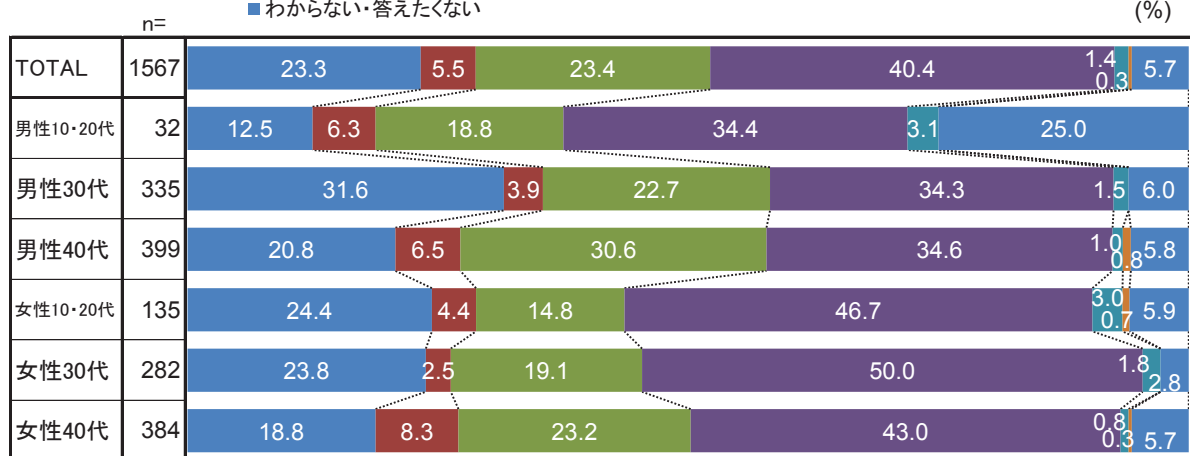


「子育てや教育にお金ー」が全世代で最も多い理由だが、年代が高まるにつれて減少する。一方、「高年齢で出産ー」は年代が高まるにつれて増加する。また「自分の仕事ー」「これ以上、育児のー」「家族の家事・育児ー」など、仕事や子育てを理由に挙げるのは女性に多い。

●1人目を出産したときの女性の仕事の状況

(回答者:子どもを持つ者1,567人/女性は自らについて、男性は配偶者について回答)

- 育児休業を取得し、継続して働いた(働いている、または働く予定である)
- 育児休業を取得せず、継続して働いた(働いている、または働く予定である)
- 妊娠前から無職だった
- 妊娠～子どもが1歳になる前の間に退職した
- 子どもが1歳になって以降、3歳になる前の間に退職した
- 子どもが3歳になって以降に退職した
- わからない・答えたくない

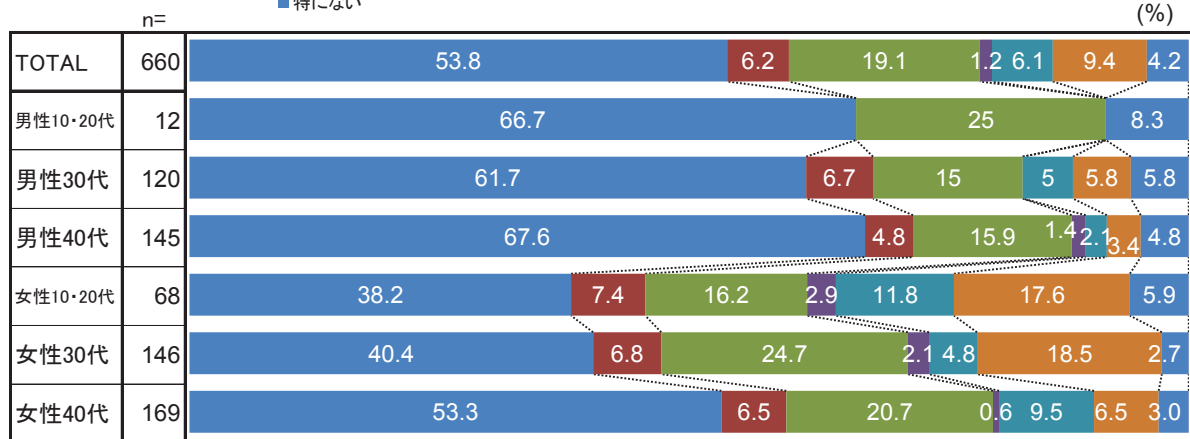


育児休業を取得して継続して働いていたのは23.3%であるのに対し、妊娠等を契機に退職した女性は40%を超えている。

●第1子の出産・子育て期に仕事を辞めた女性の理由

(回答者:前項の質問において退職したと答えた660人)

- 家事・育児に専念するため、自発的に辞めた
- 結婚・出産・育児を機に辞めたが、理由は結婚・出産・育児等に直接関係ない
- 仕事を続けたかったが、仕事と育児の両立が難しそうだった
- 子をもつ前と仕事内容や責任等が変わり、やりがいを感じられなくなった(なりそうだった)
- 解雇された、退職勧奨された(いわゆるマタハラがあった)
- その他
- 特にない

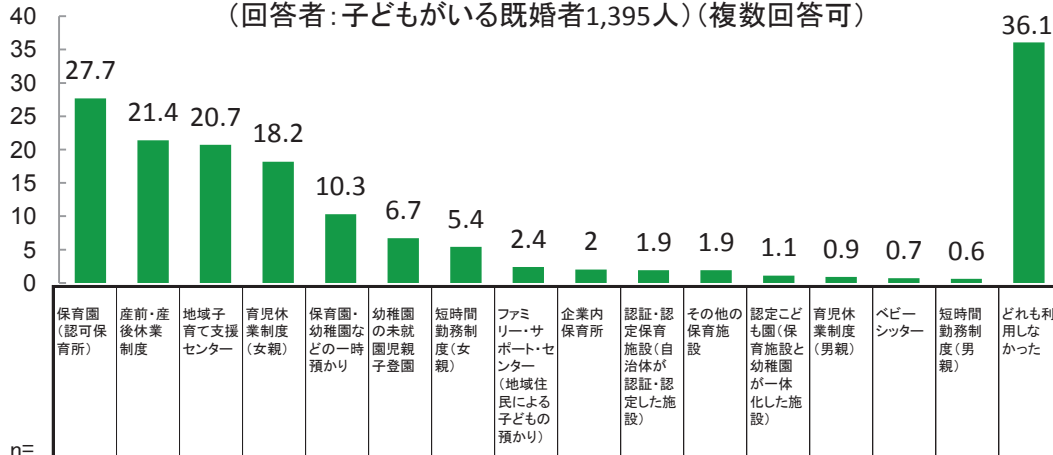


「仕事を続けたかったが」「子をもつ前と仕事内容」「解雇された」と仕事を継続する意思を持ちながら退職を余儀なくされた女性は26.4%。うち、いわゆるマタハラに遭った女性は6.1%。また、自発的に辞めたとの認識に男女間で開きがある。

(3)子育て

●子どもが3歳になるまでの間に利用した子育て関係の制度・施設

(%) (回答者:子どもがいる既婚者1,395人)(複数回答可)

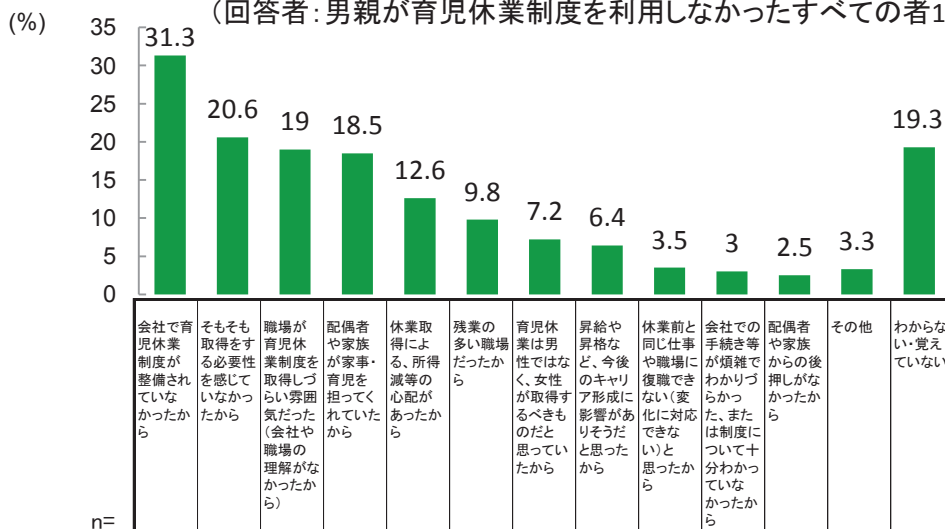


	n=	保育園(認可保育所)	産前・産後休業制度	地域子育て支援センター	育児休業制度(女親)	保育園・幼稚園などの一時預かり	幼稚園の未就園児親子登園	短時間勤務制度(女親)	ファミリー・サポート・センター(地域住民による子どもの預かり)	企業内保育所	認証・認定保育施設(自治体が認証・認定した施設)	その他の保育施設	認定こども園(保育施設と幼稚園が一体化した施設)	育児休業制度(男親)	ベビーシッター	短時間勤務制度(男親)	どれも利用しなかった
TOTAL	1395	27.7	21.4	20.7	18.2	10.3	6.7	5.4	2.4	2.0	1.9	1.9	1.1	0.9	0.7	0.6	36.1
共働き家庭(どちらも正規社員・職員)	306	41.5	56.2	15.7	51.6	10.1	4.6	15.0	3.3	4.6	1.6	2.0	1.3	1.0	0.3	1.0	17.3
共働き家庭(正規社員・職員と非正規雇用)	493	29.6	13.6	17.6	10.1	10.8	6.9	3.4	2.8	1.8	1.6	1.8	1.2	0.4	0.4	0.0	39.1
共働き家庭(上記以外の組み合わせ)	130	40.0	12.3	17.7	13.8	13.1	6.2	6.2	1.5	1.5	2.3	2.3	2.3	0.0	3.1	0.0	35.4
正規社員・職員と専業主婦(夫)の家庭	393	13.2	9.4	28.8	6.1	8.1	8.4	1.0	1.8	0.5	1.5	1.3	0.5	1.8	0.3	1.0	45.3
非正規雇用または自営業と専業主婦(夫)の家庭	50	12.0	6.0	26.0	2.0	10.0	6.0	2.0	2.0	2.0	2.0	6.0	2.0	2.0	2.0	2.0	52.0
その他	23	13.0	17.4	21.7	13.0	26.1	4.3	0.0	0.0	0.0	13.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	34.8

夫婦どちらも正規雇用である共働き家庭に対し、夫婦の一方または両方が非正規雇用である共働き家庭は、子育て関係の制度等を利用していない割合が高い。特に、産前・産後休業制度や育児休業制度(女親)で開きが大きい。

●育児休業制度(男親)を取得しなかった理由

(%) (回答者:男親が育児休業制度を利用しなかったすべての者1,551人)(複数回答可)



	n=	会社で育児休業制度が整備されていないから	そもそも取得を必要と感じていなかったから	職場が育児休業制度をとりやすい雰囲気(会社や職場の理解がなかったから)	配偶者や家族が家事を担ってくれたから	休業取得による、所得減等の心配があったから	残業の多い職場だったから	育児休業は男性ではなく、女性が取得するべきものだと思っていたから	昇給や昇格など、今後のキャリア形成に及ぼす影響が大きいと思ったから	休業前と同じ仕事や職場に復職できない(変化に対応できない)と思ったから	会社での手続き等が煩雑でわかりづかった、または制度について十分わかっていなかったから	配偶者や家族からの後押しがなかったから	その他	わからない、覚えていない
TOTAL	1551	31.3	20.6	19.0	18.5	12.6	9.8	7.2	6.4	3.5	3.0	2.5	3.3	19.3
男性10・20代	32	31.3	12.5	15.6	34.4	15.6	6.3	9.4	12.5	6.3	12.5	3.1	0.0	28.1
男性30代	326	30.4	13.8	23.9	24.8	21.2	11.3	5.2	10.7	2.8	4.0	2.8	2.5	18.1
男性40代	395	32.2	16.5	16.2	26.1	11.4	9.9	4.8	6.1	2.8	2.0	1.3	2.0	14.9
女性10・20代	135	28.1	20.0	20.7	8.1	15.6	10.4	13.3	8.1	5.2	4.4	4.4	6.7	25.2
女性30代	280	26.4	29.6	23.9	14.6	10.7	9.6	7.5	3.9	4.3	3.9	3.2	3.9	18.9
女性40代	383	36.0	25.1	13.6	10.4	6.8	8.6	8.9	3.7	3.7	1.3	2.3	3.9	22.2

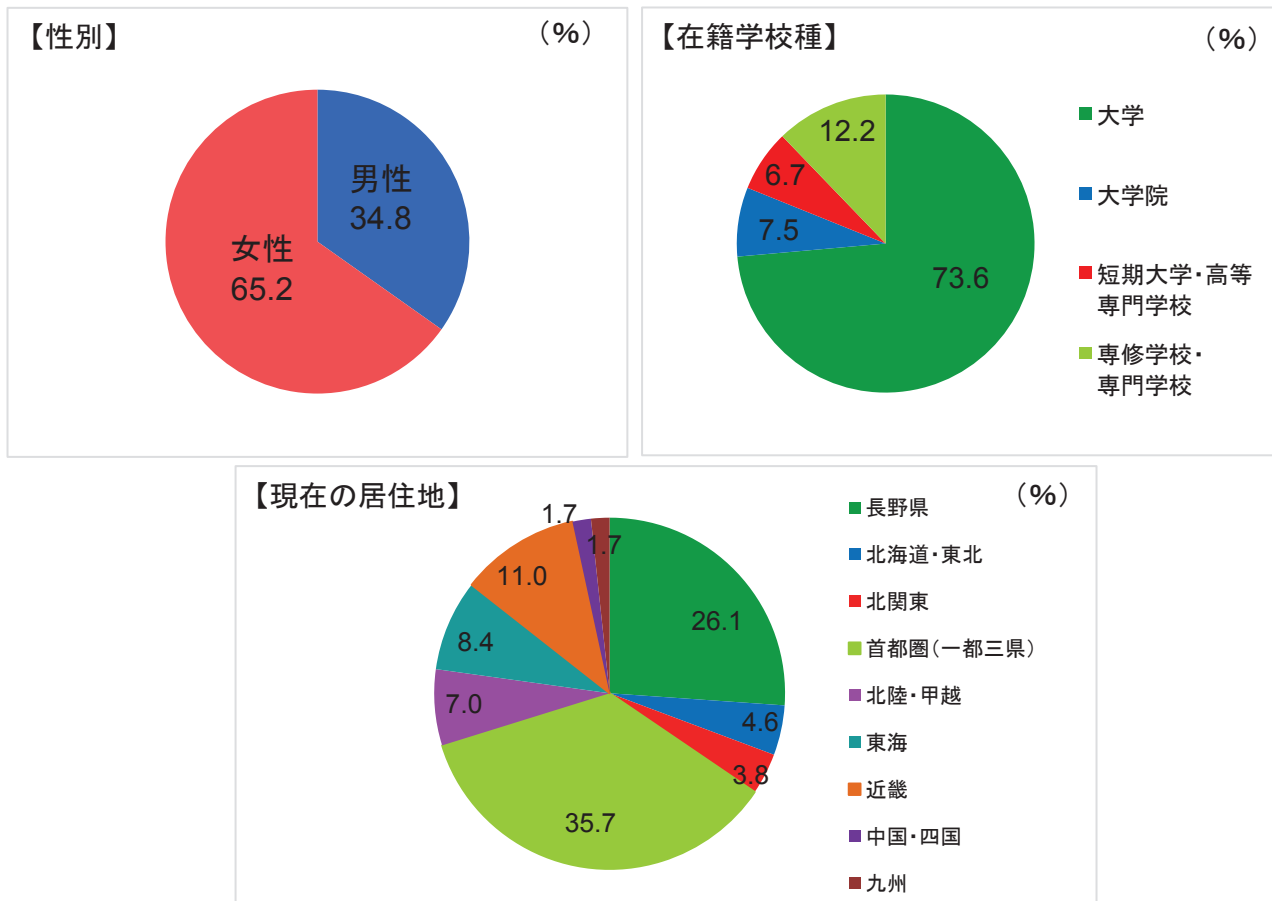
「会社で育児休業制度ー」「職場が育児休業制度を取得しづらいー」「休業取得による、所得減等ー」など、会社における子育て支援環境を理由に挙げた人が多い。また、「そもそも取得をする必要性ー」など、男性の育児親による理由も見られる。

II U・Iターン就職状況等に関する調査（①長野県出身学生に対する調査）

1 調査概要

- 調査対象者：全国に居住する長野県出身の18～29歳の男女学生
- 調査方法：Web調査によるアンケート調査
- 調査時期：平成27年7月
- 有効回収数：345

2 アンケート回答者の属性



3 主な調査結果

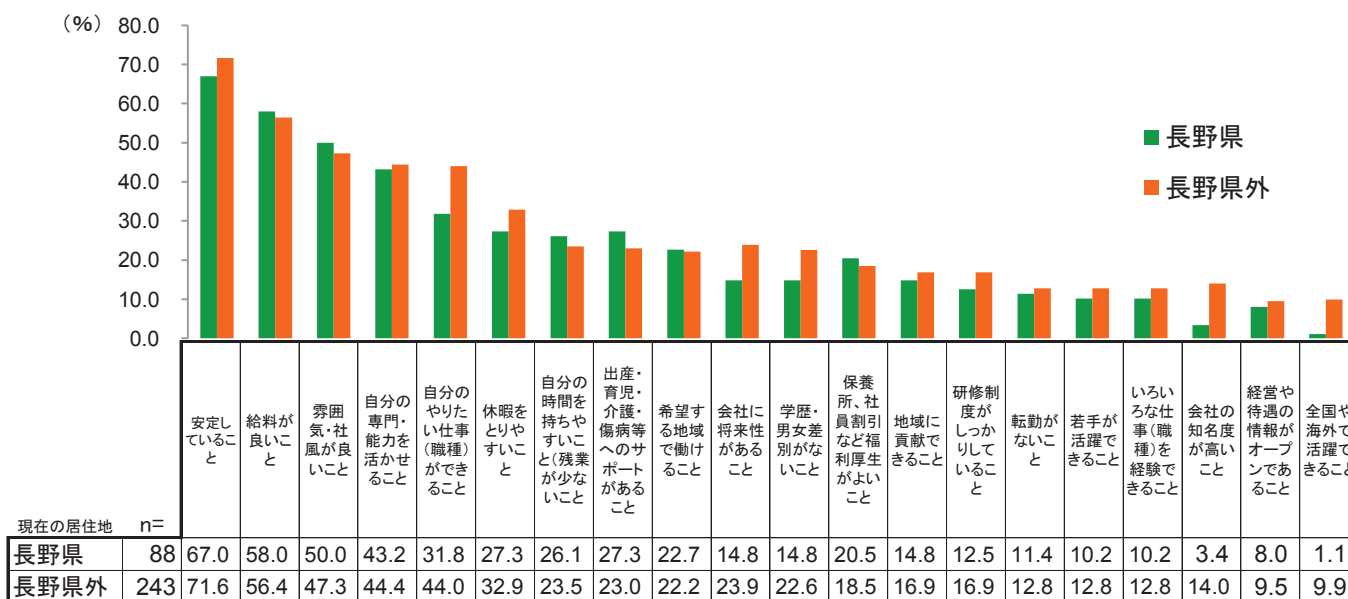
- 長野県出身者の就職候補地（回答者：就職または進学・留学希望者331人）（複数回答可）

		現在の居住地別 (%)	
		長野県	長野県外
1	長野県	72.7	47.3
2	東京都	22.7	43.6
3	神奈川県	8.0	17.7
4	埼玉県	4.5	11.9
5	大阪府	2.3	12.8

※上位5位までを掲載

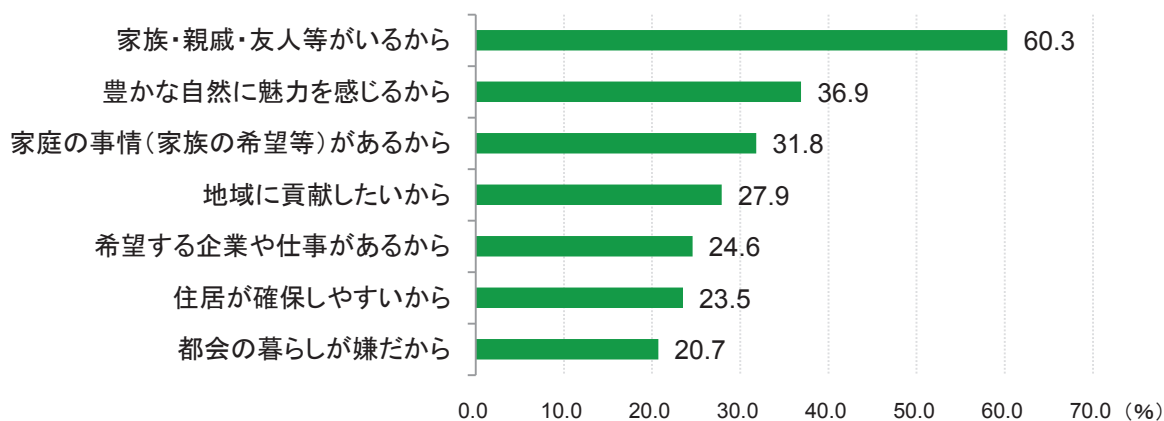
長野県への就職を希望している県出身学生は、県内在学者の方が多い。

●就職先を検討する際に重視すること（回答者：就職または進学・留学希望者331人）（複数回答可）



「安定」「給料」「雰囲気」など企業の経営状況や待遇が重視されている。一方、会社の知名度はそれほど重視されていない。

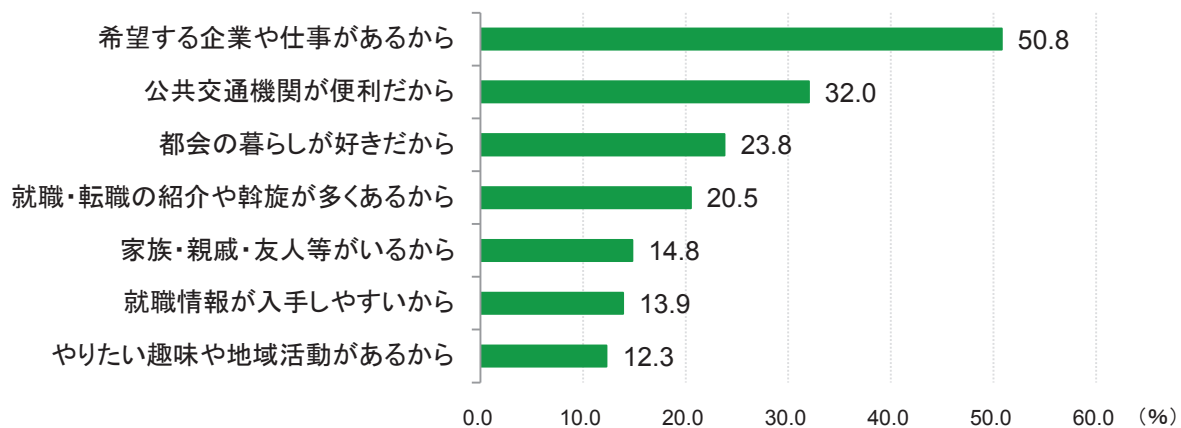
●長野県での就職を考えている理由（回答者：長野県での就職を検討している学生179人）（複数回答可）



家族・友人や豊かな自然など、人とのつながりや自然環境が理由の上位になっている。

●長野県以外での就職を考えている理由

(回答者:長野県での就職を希望していない学生122人)(複数回答可)



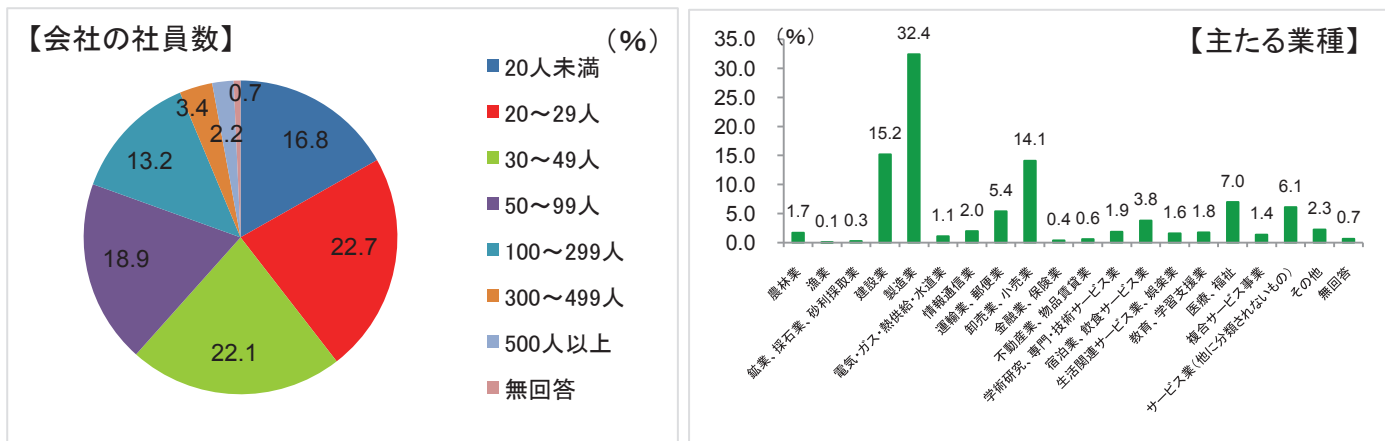
希望する企業や公共交通など、職の多様性や都市の利便性が理由の上位になっている。

II U・Iターン就職状況等に関する調査（②事業所調査）

1 調査概要

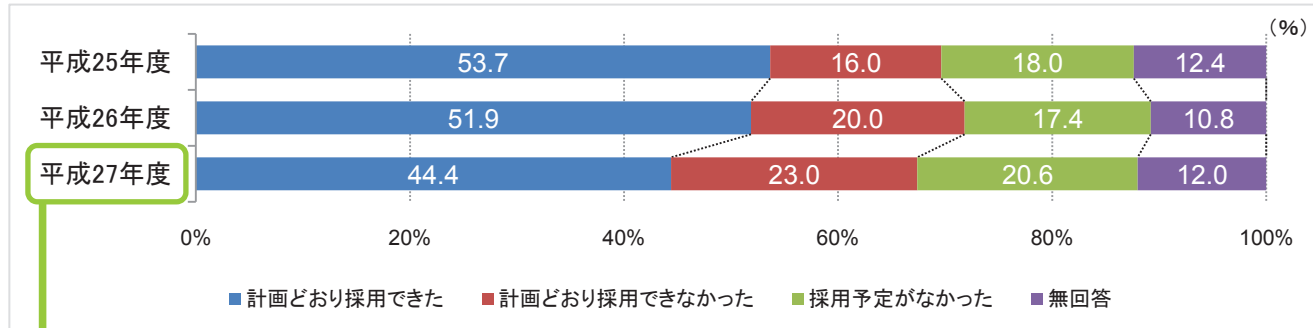
- 調査対象者：常用雇用者10人以上を雇用する県内事業所
- 調査方法：郵送調査によるアンケート調査
- 調査時期：平成27年7月
- 有効回収数：1,122（27.63%）

2 アンケート回答者の属性

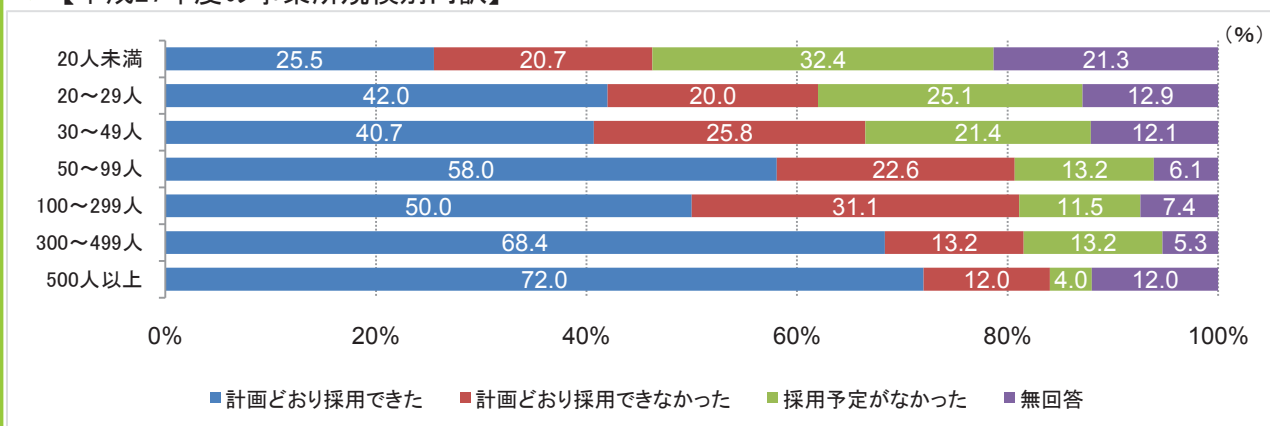


3 主な調査結果

● 県内企業の採用状況（回答者：長野県内の1,122事業所）

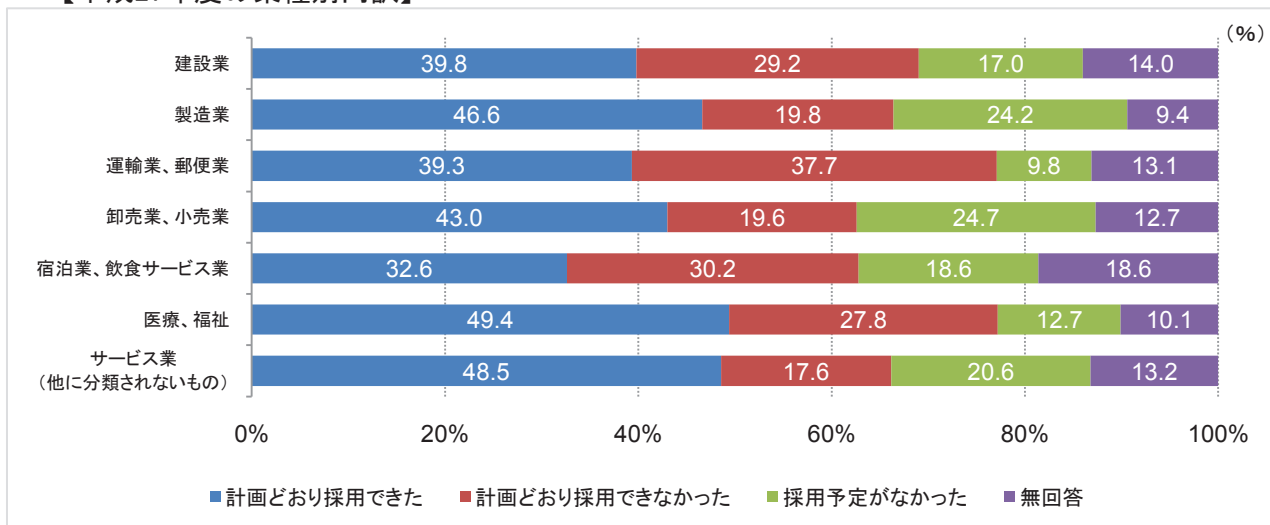


→ 【平成27年度の事業所規模別内訳】



事業所規模が大きくなるにつれ、計画どおり採用できた割合が高い。

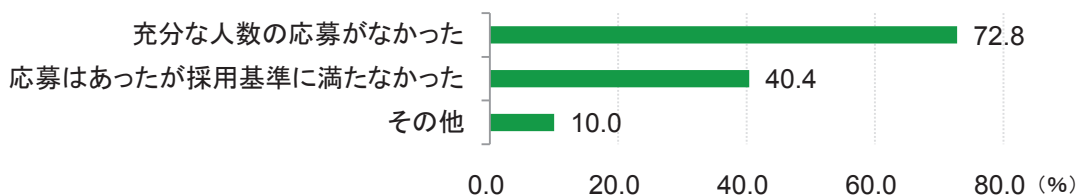
【平成27年度の業種別内訳】



全ての業種において、計画どおり採用できなかった事業所が一定割合ある。

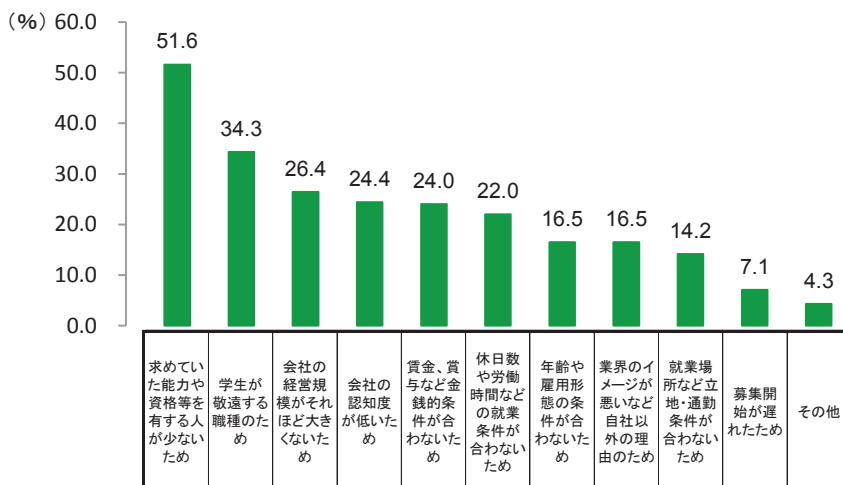
●計画どおり採用できなかった理由

(回答者:前項の質問において一度でも「計画どおり採用できなかった」と答えた349事業所)(複数回答可)



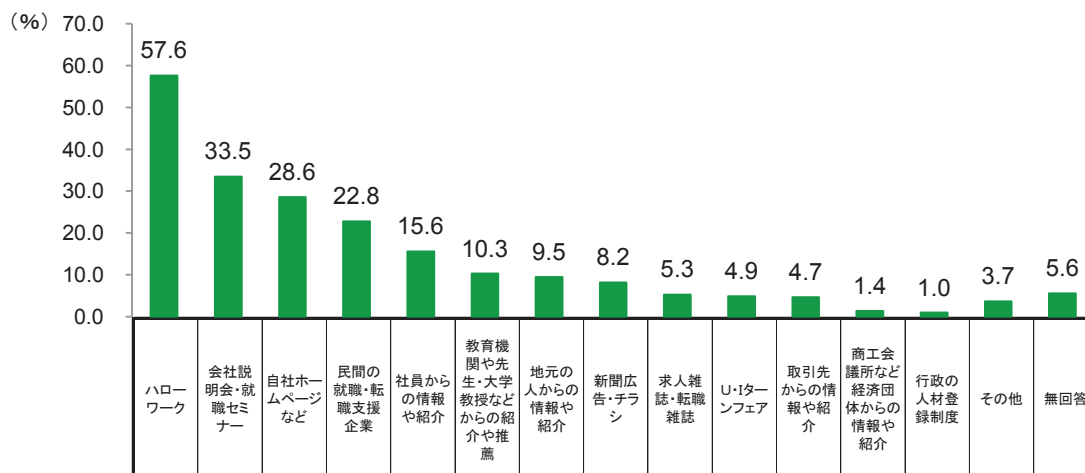
●十分な人数の応募がなかった理由

(回答者:前項の質問において「十分な人数の応募がなかった」と答えた254事業所)(複数回答可)



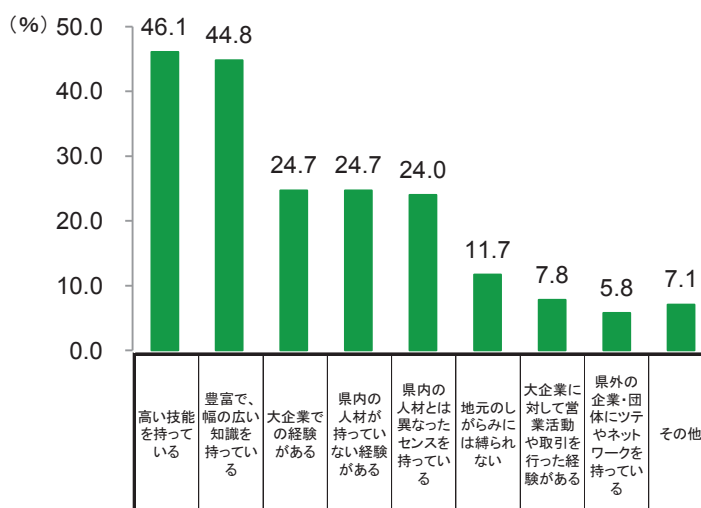
約7割の事業所が「十分な人数」を理由としてあげ、なかでも「求めている能力」をその理由にあげる事業所が最も多い。

●過去3年間に正社員として採用したU・Iターン就職者の採用経路
 (回答者:U・Iターン就職者を採用した486事業所)(複数回答可)



ハローワークによるものが最も多いが、「会社説明会」「自社ホームページ」「民間の就職・転職支援企業」など企業自らの採用努力によるものも一定程度ある。

●U・Iターン就職者に期待した能力
 (回答者:U・Iターン就職者の能力等を期待して中途採用を行った154事業所)(複数回答可)



「高い技能」「豊富で、幅の広い知識」などが強く期待されている。

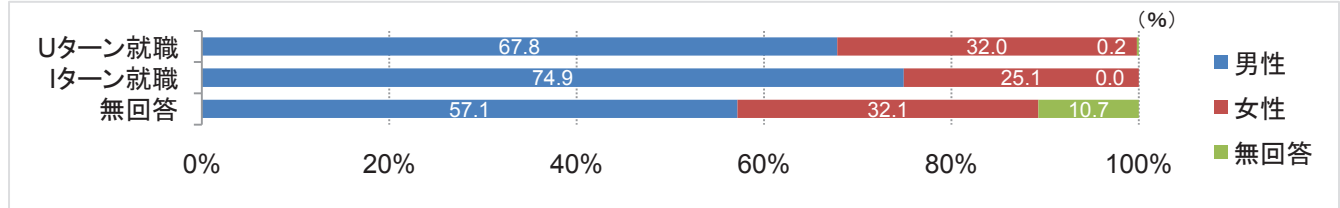
II U・Iターン就職状況等に関する調査（③U・Iターン就職者調査）

1 調査概要

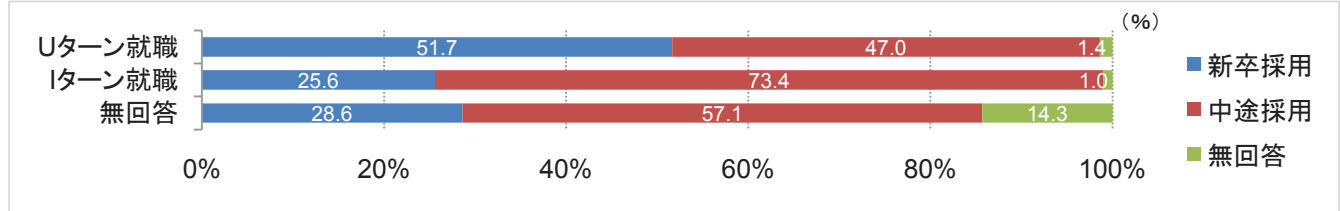
- 調査対象者：事業所調査の調査対象事業所に勤務するU・Iターン就職該当者
- 調査方法：郵送調査によるアンケート調査
- 調査時期：平成27年7月
- 有効回収数：748（Uターン就職者513，Iターン就職者207，無回答28）

2 アンケート回答者の属性

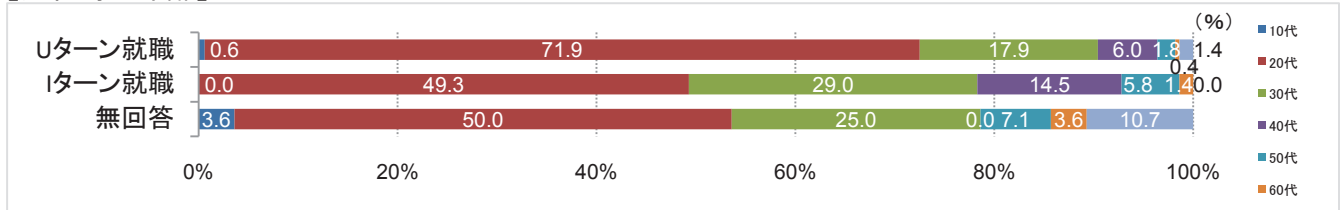
【性別】



【採用の種別】

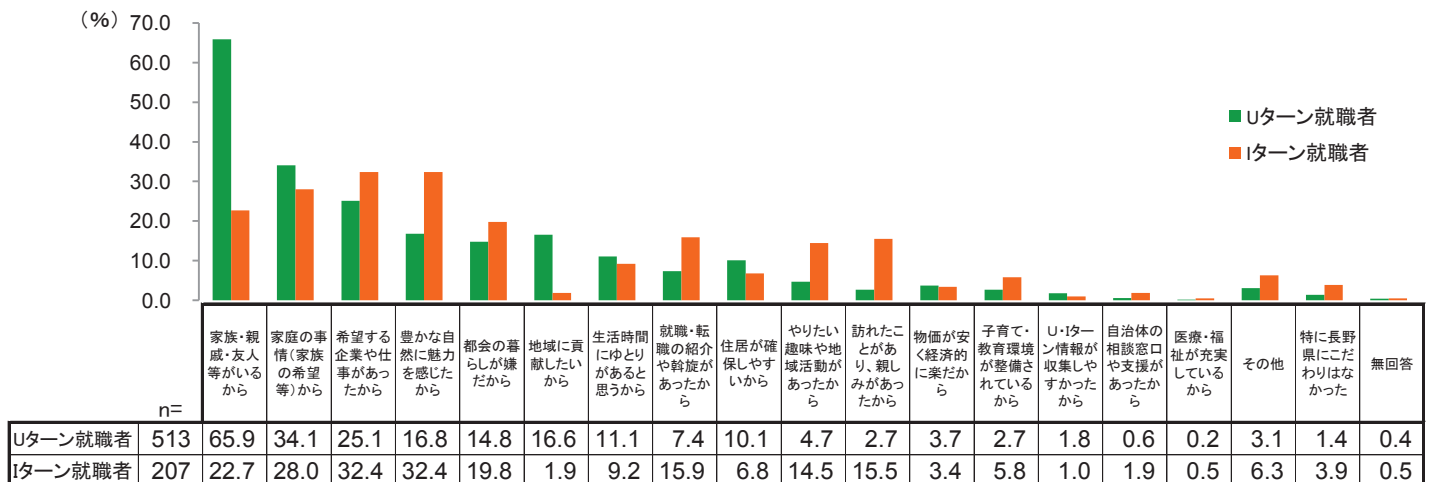


【入社時の年齢】



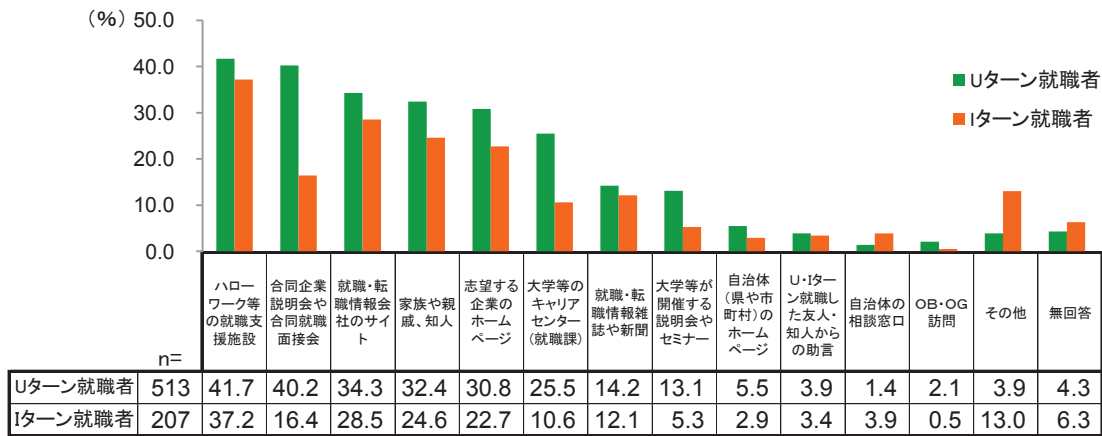
3 主な調査結果

●就職先として長野県を選んだ理由（回答者：Uターン就職者513人・Iターン就職者207人）（複数回答可）



Uターン就職者では、家族・友人等の存在や、家庭の事情が上位の理由となっている一方、Iターン就職者では、仕事の都合や自然環境が上位にあげられている。

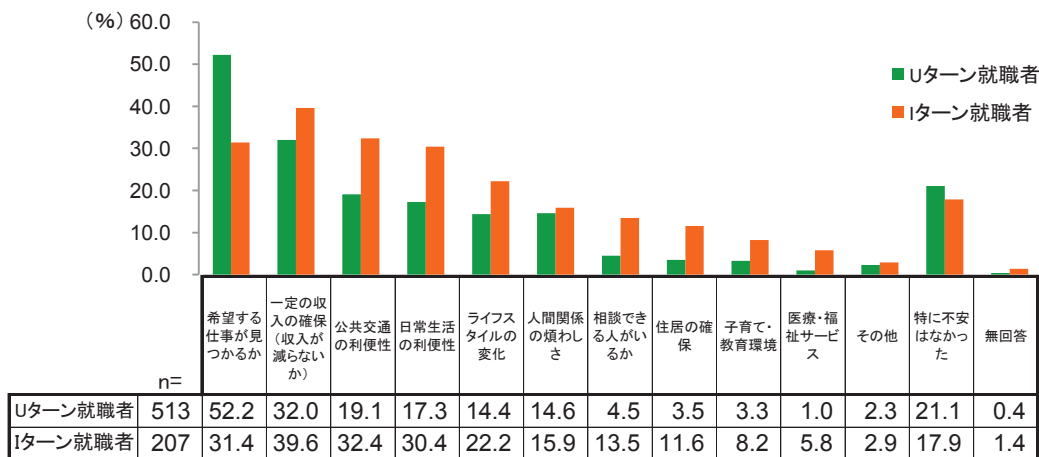
●県内就職に際して行った情報収集の方法（回答者：Uターン就職者513人・Iターン就職者207人）（複数回答可）



いずれも「ハローワーク」が最も多い。また、Uターン就職者では「合同企業説明会」も多い。

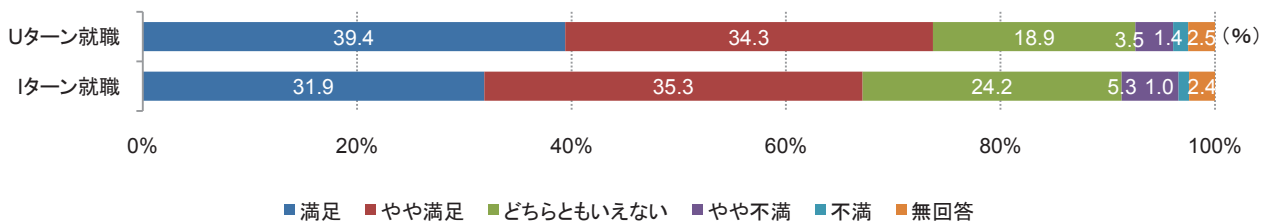
●長野県内に就職するにあたって不安に感じたこと（回答者：Uターン就職者513人・Iターン就職者207人）（複数回答可）

（回答者：Uターン就職者513人・Iターン就職者207人）（複数回答可）



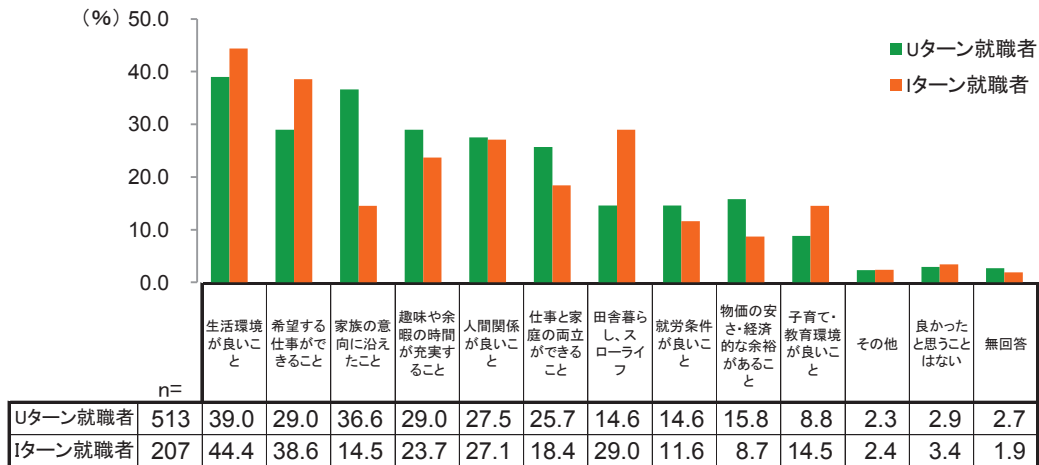
Uターン就職では仕事に関する不安が大きいのに対し、Iターン就職者は収入や交通・生活の利便性を不安に感じる人が多い。

●長野県での就職の満足度（回答者：Uターン就職者513人・Iターン就職者207人）



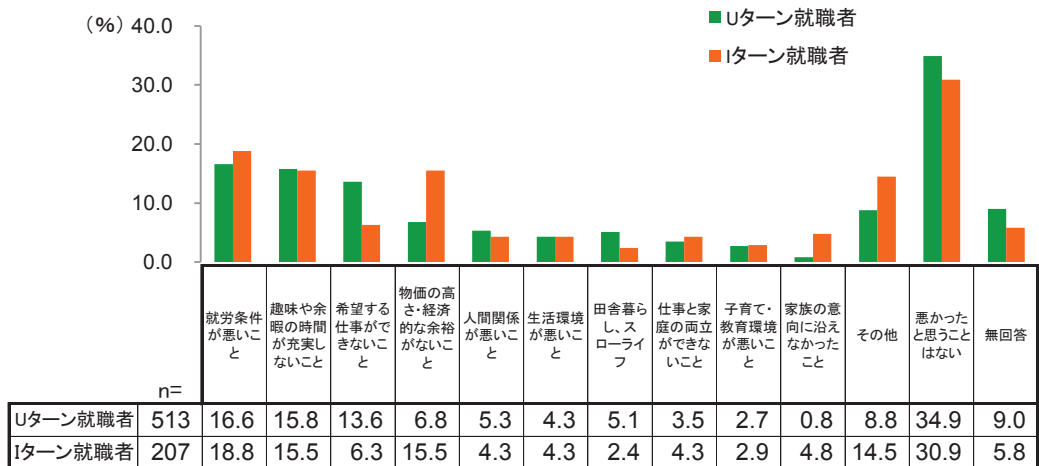
Uターン・Iターン就職者ともに満足している割合は約70%で、不満を持っている人は約5～6%である。

●長野県内に就職してよかったと思うこと（回答者：Uターン就職者513人・Iターン就職者207人）（複数回答可）



満足している内容を見ると、Uターン就職者は家族の意向や趣味・余暇の時間などをあげる人が多く、Iターン就職者では生活環境や希望する仕事、田舎暮らしなどをあげる人が多い。

●長野県内に就職して悪かったと思うこと（回答者：Uターン就職者513人・Iターン就職者207人）（複数回答可）



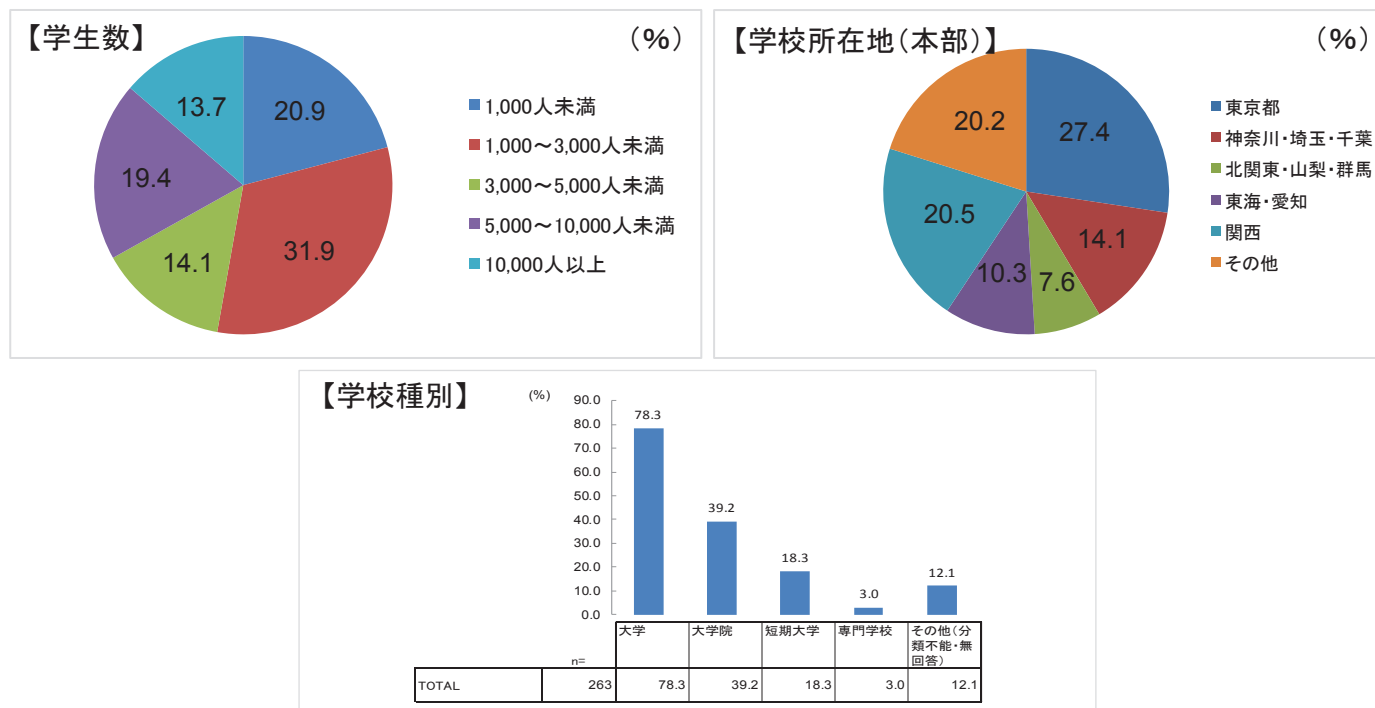
県内就職での不満については「ない」と答える人が最も多い半面、Uターン・Iターン就職者ともに勤務条件など仕事に関する不満が一定程度ある。

II U・Iターン就職状況等に関する調査（④大学等調査）

1 調査概要

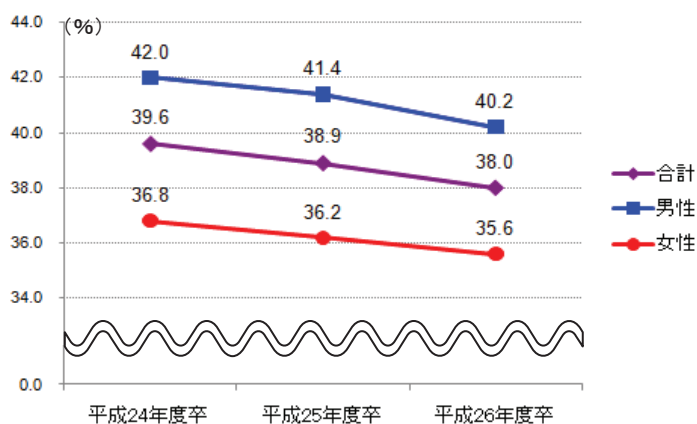
- 調査対象者：長野県出身学生が多数在学する県外大学等
- 調査方法：郵送調査によるアンケート調査
- 調査時期：平成27年7月
- 有効回収数：263（52.6%）

2 アンケート回答者の属性

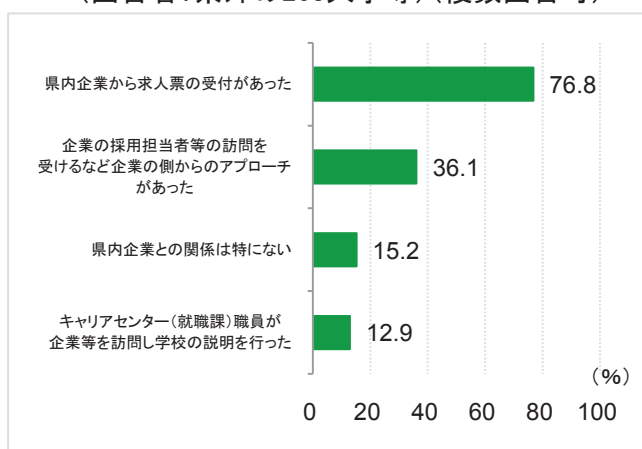


3 主な調査結果

●長野県出身学生の県内就職率 (回答者：県外の263大学等)



●就職活動における長野県内企業との関係 (回答者：県外の263大学等)(複数回答可)



県出身学生のUターン就職率は女性よりも男性の方が高い。また、県内企業から県外大学等への働きかけについては求人票は一定あるものの、大学訪問など積極的な活動は求人票と比べて少ない。